

特集「ユビキタス社会を支えるコンピュータセキュリティ技術」の編集にあたって

岩 村 恵 市†

「ユビキタス社会」とは「いつでも、どこでも、何でも、だれとでもつながる社会」であり、2010年の先駆的な実現を目指して、わが国では u-Japan 政策が進められている。この社会ではパソコンだけでなく、冷蔵庫やエアコン、TV といった従来の家電機器までネットワークにつながり、さらには RFID を通じて牛肉や大根といったものまでネットワーク化される。そのネットワークの安全性を確保し、そこを流れる情報の保護を実現するセキュリティ技術はユビキタス社会においては、基盤技術の位置づけをもつ。しかしそのような社会において、真の安全性を実現するためには工学としてのセキュリティ技術だけではなく、法律や社会倫理までを含めた種々の側面をもつセキュリティ基盤として広がって行く必要がある。

コンピュータセキュリティ研究会 (CSEC) が扱うセキュリティに関する研究は、まさに理論から実装、法律、社会倫理なども含めた広い範囲の研究を対象とすることに 1 つの特徴を持つ。CSEC 主催で毎年行われるコンピュータセキュリティシンポジウム (CSS) では、それを反映した幅広い研究発表が行われる。昨年の CSS2005 では、個人情報保護法などの社会ニーズを反映してプライバシー保護、セキュリティ評価・監査に関する発表が急増した。また、CSS2005 の参加者は 255 名、発表論文は 121 件であった。発表論文の数は昨年の 140 件より減少したが、参加者は増加した。ただし、発表論文数は一昨年が 113 件、その前の年が 81 件であったことを考えれば、着実に定着・増加しているといえる。

本特集号では CSS2005 や学会を通じて広く優秀な論文を募集した。前記のように、CSS2005 の発表論文数は昨年より減少したが、本特集号への投稿論文数は 70 件あり、昨年の 65 件を超える投稿があった。そのうち著者によって取り下げられた 1 件を除いた 69 件の中から 24 件が採択された。採択率は約 35% となり、今までで最も厳しい採択率となった。

また、本特集号では投稿論文数の増加にともない、多くの方に編集委員、査読者として協力していただいた。投稿論文数が増加したにもかかわらず、こうし

て予定どおり出版にこぎつけたのは、編集委員の方をはじめ査読者や学会関係者など多くの方々のご尽力があつての賜物である。編集委員長として、この場を借りて本特集号にご尽力していただいた皆様に感謝申し上げます。特に、初期の頃幹事として立ち上げ作業をしていただいた吉浦編集委員、吉浦編集委員と交代して途中から幹事として運営・進行に関わる作業をしていただいた宇田編集委員と満保編集委員には、多くのご苦勞をおかけした。深謝いたします。

「ユビキタス社会を支えるコンピュータセキュリティ技術」特集編集委員会

- 編集長

岩村 恵市 (東京理科大)

- 編集委員 (五十音順)

宇田 隆哉 (東京工科大)

岡本 栄司 (筑波大)

菊池 浩明 (東海大)

櫻井 幸一 (九大)

佐々木良一 (東京電機大)

四方 順司 (横浜国大)

下川 俊彦 (九州産業大)

新保 淳 (東芝)

田中 清 (信州大)

田中 俊昭 (KDDI 研究所)

寺田 真敏 (日立)

土井 洋 (情報セ大)

西垣 正勝 (静岡大)

沼尾 雅之 (日本 IBM)

朴 美娘 (三菱電機)

松浦 幹太 (東京大)

満保 雅浩 (筑波大)

宮地 充子 (北陸先端大)

村山 優子 (岩手県立大)

盛合 志帆 (ソニー CE)

吉浦 裕 (電気通信大)

渡辺 健次 (佐賀大)

† 東京理科大学